

# 横山 武夫（よこやま・たけお）

## 1、プロフィール

昭和3年歌誌「羅漢柏」創刊、主宰者。県文化振興会議会長、県歌人懇話会会長、東奥日報社主催県短歌大会選者等を歴任して、青森県内外に、大きな文化業績を遺した。

<生没>

1901(明治 34)年 12 月 15 日 ~ 1989(平成元)年8月 22 日

<代表作>

歌集『山上湖』『山を仰ぐ』『太陽光』『白木蓮』『清泉集』『南窓山房吟』  
随筆集『わが心の島木赤彦』上・下巻

<青森との関わり>

青森市の国鉄職員の長男として生まれる。

## 2、作家解説

「ワーズワースの『暮らしは低く、想いは高く』という言葉が好きです。自分の求める人生と共通しているからでしょう。尊敬する人は、内村鑑三、島木赤彦、斎藤茂吉などです。人生の労苦者が好きなんです」と語っていた横山武夫は、学生時代から文芸に親しみ、大正6年、短歌誌「樹焰」を有志とともに刊行。若山牧水、太田水穂等も寄稿、指導をうけたが、昭和3年、青森商業の教え子らと短歌誌「羅漢柏(アスナロ)」を創刊した。(同誌は平成 15 年2月、通巻 604 号で終刊)昭和 14 年、短歌誌「国土」の創刊に参画し、これを主宰、藤沢古実と並んで指導的役割を果たす。また東奥日報社主催青森県短歌大会選者(昭和 22 年~平成元年)、青森県歌人懇話会会長(昭和 48 年~平成元年)として青森県歌壇を指導し、大きな文化業績を遺した。

歌碑として次のようなものがある。

白雪をかかげて天に聳えたまふわが魂の八甲田山

(歌集『山を仰ぐ』昭和 55 年、青森市諏訪神社境内建立)  
時の逝くはかくの如きか空と海の連なり照らす白の太陽光

(歌集『太陽光』昭和 51 年、木造町西の高野山弘法寺境内建立)  
青森県教育委員会教育次長、青森県副知事、青森県文化振興会議会長、青森県文化財保護協会会長、棟方志功記念館館長など、数多くの要職をつとめた。

東奥賞(アスナロ短歌会、昭和 54 年)、青森県文化賞(昭和 41 年)、勲三等旭日中綬章(昭和 48 年)受章。

### 3、資料紹介

○歌集『清泉集』

図書

1985(昭和 60)年7月 25 日

182mm×128mm

第五歌集。島木赤彦、斎藤茂吉を尊敬し、人生の真実を求めて作歌を継続してきた著者が昭和 52 年から 57 年までの歌 778 首を収める。あとがきで、『清泉集』と題したのは唐の詩人、王維の「山居秋暝」の五言律詩中の「清泉石上流」から借用したと述べている。